

1 入館者数「1万人」超える

平成24年6月17日、イタイイタイ病資料館に29番目の団体利用者となる「入善町婦人防火クラブ」の皆さんが来館され、入館者数が「1万人」を超えました。

4月29日の開館以降、連日、県内外からたくさんの方々に資料館を訪れていただいております、開館日から数えて44日目（休館日を除く）での達成となりました。連休中には、約半数が来館され、その後も順調に推移してきました。

また、10名以上の団体を対象に、患者のご家族などから貴重な体験を聴くことのできる「語り部講話」を実施していますが、この日までに13団体、383名の方々が聴講されています。

今後とも、より多くの方々に、イタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史を伝え、環境と健康の大切さについて、発信していきます。



2 東京そして韓国からの修学旅行でイタイイタイ病を学ぶ

修学旅行で富山県を訪れた国内外の中学生らが、資料館を見学し、イタイイタイ病について学習しました。

5月23日には、東京の筑波大学附属駒場中学校の生徒5名が訪れ、「イタイイタイ病の今」と題した、自らの研究テーマに沿って学習しました。映像や資料のほか、語り部の体験談などから、「授業では教わらない多くのことが学べた」という声があり、イタイイタイ病の特徴や現在の状況などについて、それぞれ理解を深めていました。

また、6月5日には、韓国から60人を超える中学生らが訪れました。展示室を韓国語の展示ガイドや音声ガイダンスを利用しながら、興味深く見学。語り部講話では、患者の苦しみや看病の様子について、通訳を介しながら、熱心に聴き入っていました。受講後、「こんなにも恐ろしい病気だと知らなかった」という感想が聞かれ、言語が違っても、公害の恐ろしさは十分伝えることができることを確認できました。

これからも、地球規模での公害防止に向け、積極的な情報発信をしていかなければならないと改めて実感しました。



【写真：韓国から修学旅行で訪れた中学生】